

## 農学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
学生の確保 (人)	1年次	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)
		3年次 編入学	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	37 (37)		49 (42)		5 (4)		— (1)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	108 (96)			36 (88)			2 (1)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	— (3)	6 (3)	3 (1)	12 (15)	28 (20)			
	退学者	1 (—)	— (—)	— (—)	2 (2)	5 (6)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・( ) は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

### 1 農学研究科の活動

本研究科では、高度な農学的知識を修得させて、社会において指導的役割を果たせる人材を養成するよう大学院生の教育と研究指導を行っている。本年度は昨年度を上回る学位取得者を出した。特に、外国人留学生の学位取得者は約半数を占め、本研究科が従来より行っている留学生および研究者リフレッシュを対象にした複数教員指導制のアドバイザー委員会が高い教育効果を挙げているものと思われる。

### 2 教員の教育業績評価の状況

本研究科では教員の業績評価を教員の出身学系にゆだねており、具体的には実施していない。各教員の業績評価には長期的な尺度が必要であるが、教育業績の評価の一つの指標である課程修了博士の学位取得者は当該年度の修了定員37名に対し、49名と約1.3倍であり、本研究科教員は十分な教育成果をあげていると考えられる。

### 3 自己評価と課題

学位取得者数は昨年度を上回った。論文・著書発表数および受賞・表彰等も学生数が減少したにも拘わらず、増加した。これらの点は学生の努力によることはもとよりであるが、本研究科教員の指導の成果であり、大きく評価できると思われる。しかし、将来の論文・著書発表につながる学会発表数は昨年度を大きく下回った。学生数の減少も要因の一つであるが、より一層の努力が必要と思われる。また、本年度は農学研究科最後の年にあたるため、多くの大学院生が学位取得できるよう教育・指導以外にも臨時論文審査委員会を設ける等努力したが、年度当初の在籍者の6割しか取得できなかった。一部の大学院生の学位取得にあたっては、新研究科所属の農学関連3専攻の教員に協力を依頼することとなった。

学生の進路先は依然として狭く、学位取得者の就職は昨年同様低迷しており非常に困難である。就職先の開拓を一層推進するなどの努力が必要である。